



NIE
教育に
新聞を

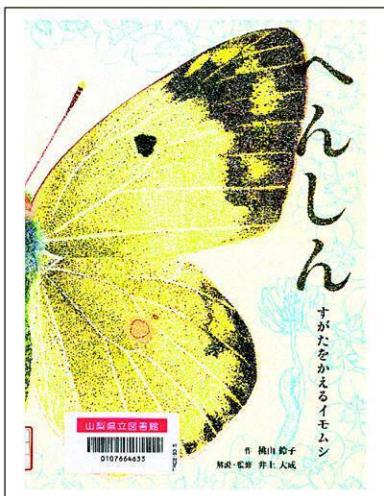
4

小学1・2年生向け

へんしん—すがたをかえるイモムシ

桃山鈴子作 井上大成解説・監修

春のある日のこと。白い小さな卵が、菜の花の葉の裏に産みつけられています。卵の色が黄色に変わると、殻をやぶって小さなイモムシが生まれましたよ。「まずは たまごの からを むしゃむしゃ」。それから葉を食べて大きくなったイモムシは、皮を脱ぎました。「たべて ふとって またぬいで」。何回か脱皮をして十分成長すると、糸を吐いて、体が茎から離れないように糸を巻き付けます。「うねうね うねうね」と最後にもう一度皮を脱ぎ、サナギになりました。やがてサナギの色が変わると、「ぱりっ」と背中が割れて……。モンシロチョウなど3種類のチョウが、幼虫から成虫へと体の形を大きく変えて成長する様子を、丁寧に描いた絵本です。



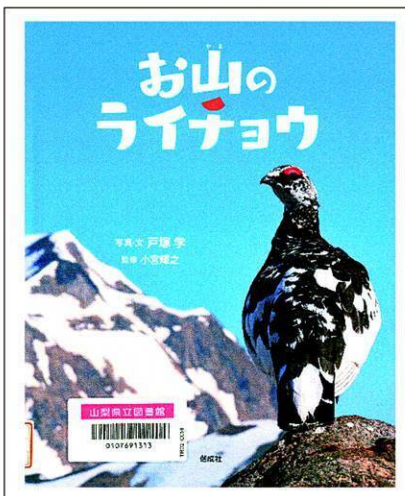
(福音館書店 1540円)

小学3・4年生向け

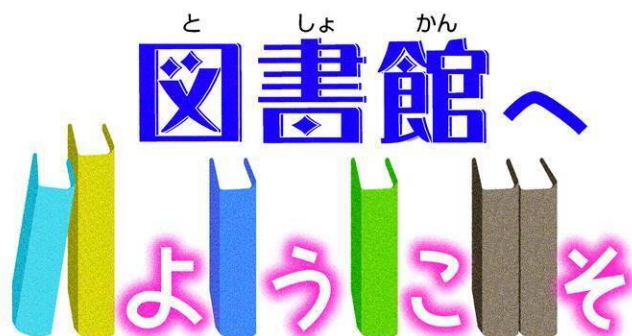
お山のライチョウ

戸塚学写真・文 小宮輝之監修

ライチョウは、主に北極圏を中心とする寒い地域に分布している、ハトよりも少し大きな鳥です。日本では、神様が住むとされる高山にだけ生息しているため、神の鳥として大切にされてきました。ライチョウの特徴は、年に3回も羽が生えかわることです。季節によって変化する景色に溶け込むように、冬羽、夏羽、秋羽とそれぞれ違う色、模様の羽になります。例えば冬羽は、雪景色に似た全身真っ白の羽です。夏羽や秋羽のライチョウは、どんな姿なのでしょう。ライチョウの特徴や、子育ての様子などがわかる写真絵本です。地球温暖化の影響で数が減ってきているライチョウを守り、数を増やす活動が行われていることも紹介されています。



(偕成社 1760円)



姿が変わる生き物が登場

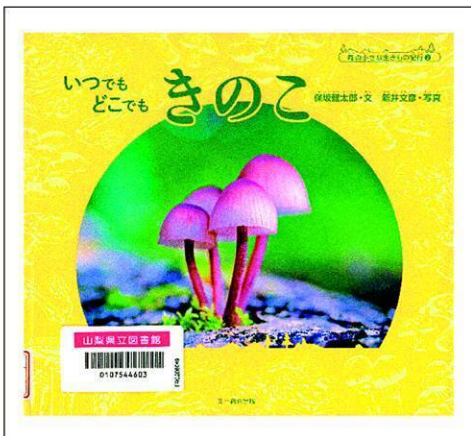
環境が変化したときや、成長するときなどに、色や形が大きく変わる生き物がいます。みなさんは、「変身」する生き物と聞いて何を思い浮かべますか？ 今回は、姿が変わる生き物が登場する本を紹介しします。(山梨県立図書館 後藤麻友) =毎月第2週に掲載します

小学5・6年生向け

いつでも どこでも きのこと

保坂健太郎文 新井文彦写真

お店に売っているシイタケなどの食用キノコは、ほとんどが栽培されたものです。野生のキノコは、コケの生えた地面や枯れ木などに見つけることができ、1年を通して必ずどこかに生えています。キノコの形をイメージしてみましょう。丸い傘を開いたような姿が思い浮かんだでしょうか。それは「子実体」といい、キノコの体のほんの一部分です。キノコの本体「菌糸」は、糸のような構造で、地面の下などに放射状に広がっています。雨が降ったりして環境が変化したときに、子実体ができます。この本には100種類以上のキノコが登場し、子実体にはさまざまな色や形があるのだとわかります。その他に、胞子を使った簡単な実験など、写真とイラストで紹介しします。



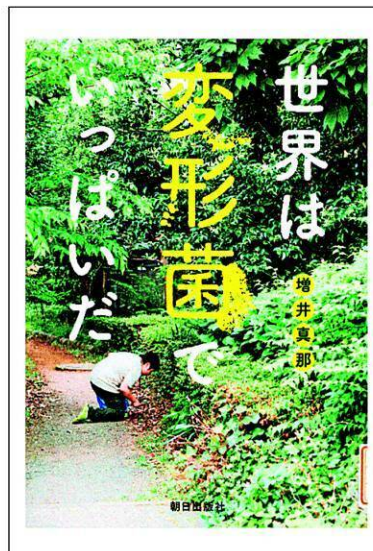
(文一総合出版 1980円)

中学生向け

世界は変形菌でいっぱい

増井真那著

この本を書いたのは、粘菌の仲間である変形菌を研究する16歳の少年です。変形菌との出会いは5歳の頃、テレビで、ネバネバした変形菌が「ムニムニ」動き、どんどん形を変える姿を見て、「……こんなフシギな生きものがいたのか……」と驚きました。変形菌は、黄色や赤色、青色などいろいろな色をしています。網の目のような形を自由自在に変化させ、二度と同じ形にはなりません。動き続けたかと思うと、ある日突然、細い柄に球体に乗ったような姿をした「子実体」に変身するのです。日本変形菌研究会の人たちと変形菌探しに出かけ、採取した変形菌と一緒に暮らしている著者が、変形菌の魅力や研究について、豊富な写真と共に伝える一冊です。



(朝日出版社 1980円)